

千葉県感染症発生動向調査情報

2015年 第51週 (12/14-12/20) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		51週	50週	49週	48週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉県					千葉県 12/7-12/13 50週
		注意報	12/14-12/20	12/7-12/13	11/30-12/6	11/23-11/29	
			51週	50週	49週	48週	
小児科	RSウイルス感染症	→	19 1.06	19 1.06	14 0.78	18 1.00	147 1.09
	咽頭結膜熱		11 0.61	5 0.28	5 0.28	4 0.22	123 0.91
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	53 2.94	45 2.50	46 2.56	33 1.83	514 3.81
	感染性胃腸炎		233 12.94	225 12.50	186 10.33	111 6.17	1,308 9.69
	水痘		26 1.44	17 0.94	24 1.33	10 0.56	124 0.92
	手足口病		2 0.11	9 0.50	6 0.33	3 0.17	43 0.32
	伝染性紅斑		14 0.78	9 0.50	9 0.50	8 0.44	98 0.73
	突発性発しん		9 0.50	8 0.44	8 0.44	16 0.89	60 0.44
	百日咳		1 0.06	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	ヘルパンギーナ		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00	8 0.06
	流行性耳下腺炎	○	17 0.94	15 0.83	15 0.83	10 0.56	137 1.01
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		2 0.07	3 0.11	2 0.07	2 0.07	60 0.28
眼科	急性出血性結膜炎		1 0.20	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		4 0.80	2 0.40	2 0.40	8 1.60	17 0.50
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		2 2.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		1 1.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(6件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	70歳代	画像診断	後天性免疫不全症候群	女性	50歳代	血清抗体の検出
結核	男性	80歳代	画像診断等	ジアルジア症	男性	70歳代	病原体の検出
結核	男性	80歳代	画像診断等	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	50歳代	病原体の検出

*結核3件(222)、後天性免疫不全症候群1件(6)、ジアルジア症1件(3)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(25)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

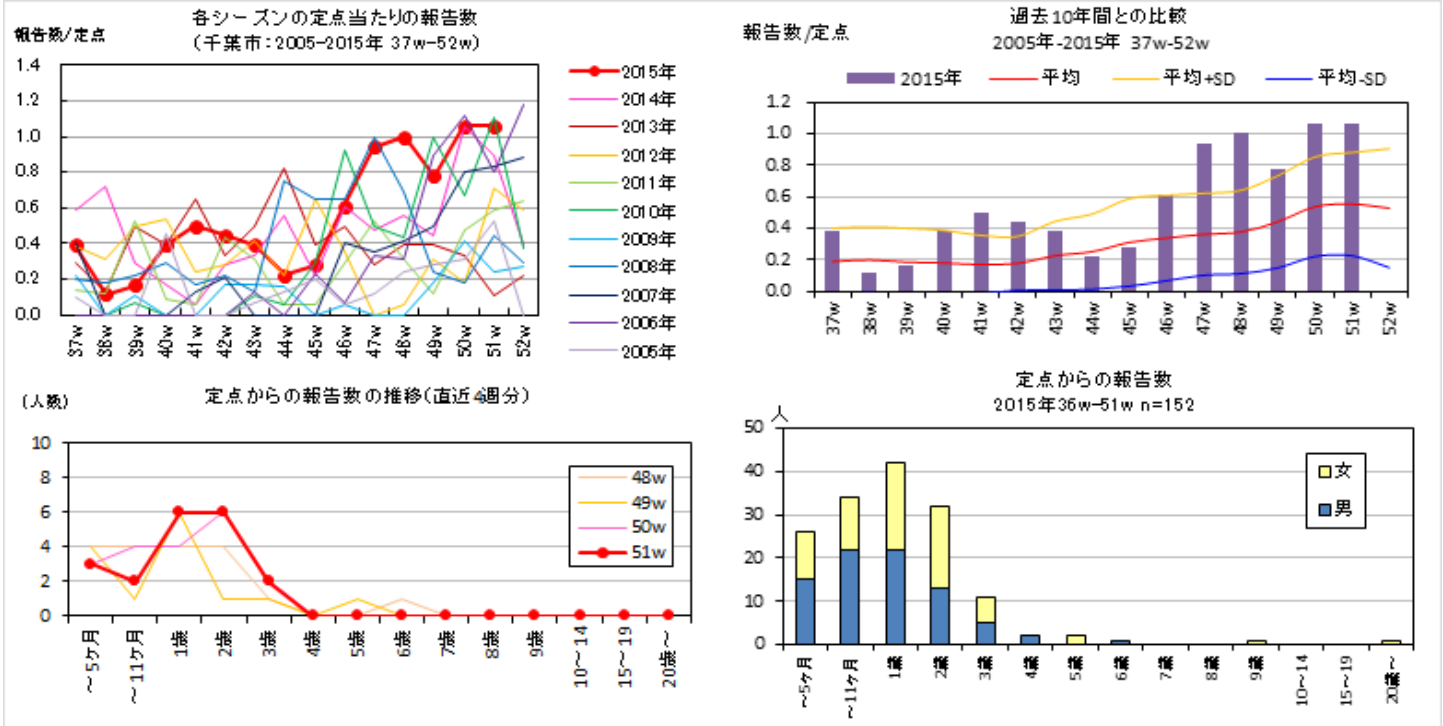
定点当たり報告数 第51週のコメント

<RSウイルス感染症> 前週から横ばいで1.06のままとなった。過去10年の同時期と比べると多い。
 <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し2.94となった。過去10年の同時期と比べると多い。
 <流行性耳下腺炎> 前週から増加し0.94となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

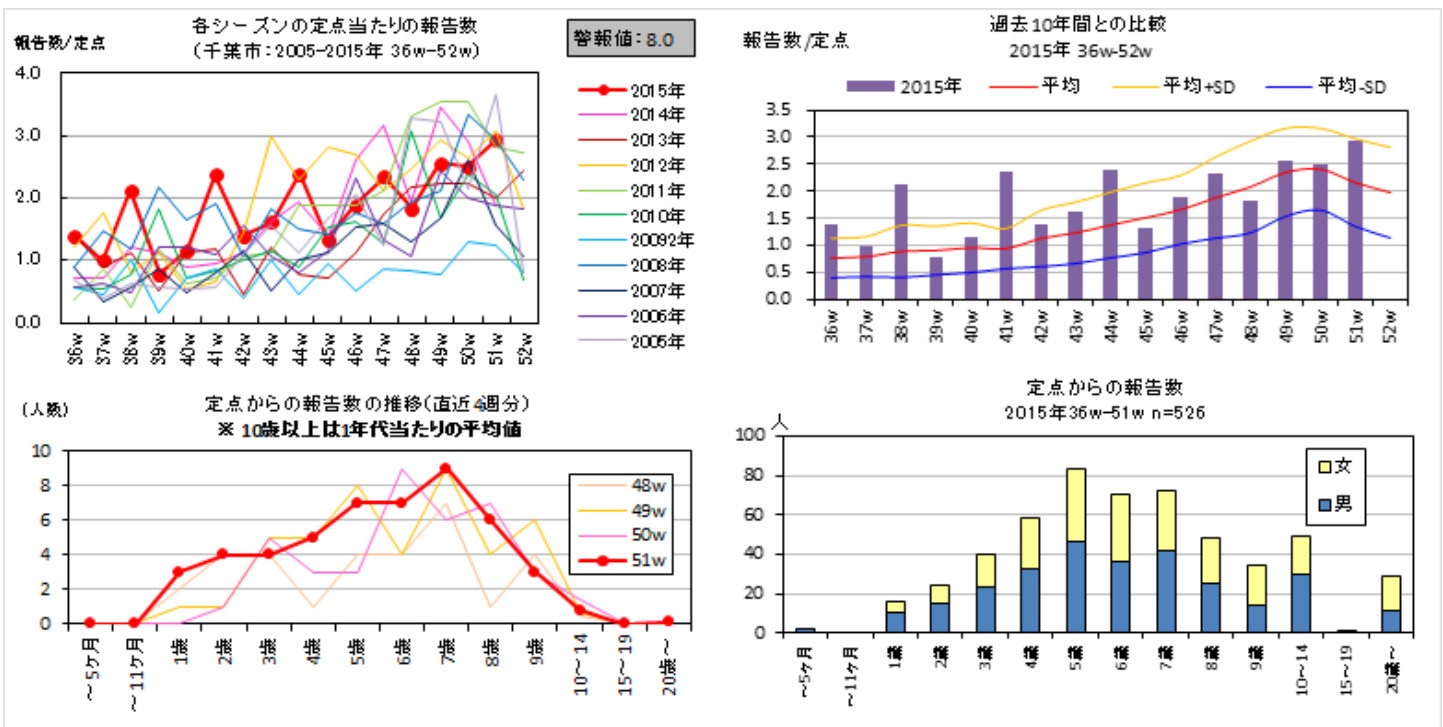
＜RSウイルス感染症＞

全国レベルの第50週現在は、過去8年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、香川県、奈良県、鳥取県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なくなっています。千葉市の2015年第51週は前週から横ばいで1.06のままとなり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、緑区(1.75/定点)で最多で、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から第51週までの累積報告数(n=152)によると、性別では男性が52.6%(80名)、女性が47.4%(72名)で、年齢階級別では1歳(27.6%:42名)、6～11か月(22.4%:34名)、2歳(21.1%:32名)の順に多くなっています。



＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルは第7週から連続して過去8年の同時期と比べほぼ最多の状態となっており、第50週も同様となっています。都道府県別では、山形県、鳥取県、静岡県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2015年第51週は前週から増加し2.94となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(8.5/定点)で流行発生警報開始基準値(8.0/定点)を上回り最多で、同区の5歳及び7歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第51週までの累積報告数(n=526)によると、性別では男性が54.8%(288名)で女性が45.2%(238名)で、年齢階級別では5歳(15.8%:83名)、7歳(13.7%:72名)、6歳(13.3%:70名)の順に多くなっています。



＜流行性耳下腺炎＞

全国レベルの第49週は過去8年の同時期と比べ多くなっています。都道府県別では、石川県、佐賀県、長崎県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや多めとなっています。千葉市の2015年第51週は前週から増加し0.94となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(4.0/定点)で流行発生注意報基準値(3.0/定点)を上回り最多で、同区の6歳で最も多く発生報告がありました。若葉区では第18週から例年に比べ高い水準で推移しています。2015年第1週から第51週までの累積報告数(n=363)によると、性別では男性が54.0%(196名)で女性が46.0%(167名)で、年齢階級別では4歳(16.3%:59名)、5歳(14.9%:54名)、6歳(12.9%:47名)の順に多くなっています。

